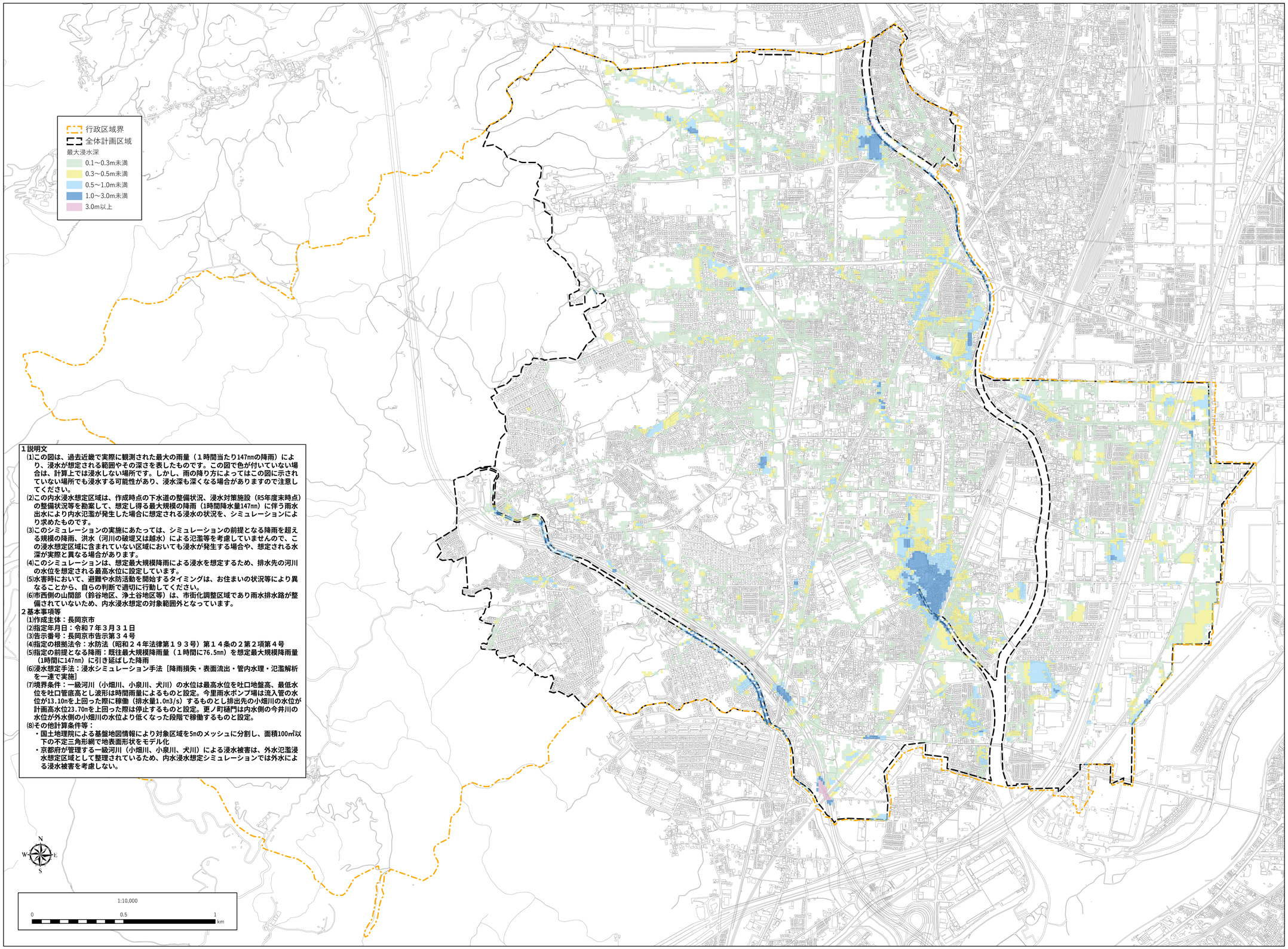
長岡京市雨水出水（内水）浸水想定区域図（想定最大規模降雨）



１説明文

⑴この図は、過去近畿で実際に観測された最大の雨量（１時間当たり147mmの降雨）により、浸水が想定される範囲やその深さを表したものです。この図で色が付いていない場合は、計算上では浸水しない場所です。しかし、雨の降り方によってはこの図に示されていない場所でも浸水する可能性があり、浸水深も深くなる場合がありますので注意してください。

⑵この内水浸水想定区域は、作成時点の下水道の整備状況、浸水対策施設（R5年度末時点）の整備状況等を勘案して、想定し得る最大規模の降雨（1時間降水量147mm）に伴う雨水出水により内水氾濫が発生した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。

⑶このシミュレーションの実施にあたっては、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨、洪水（河川の破堤又は越水）による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に含まれていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際と異なる場合があります。

⑷このシミュレーションは、想定最大規模降雨による浸水を想定するため、排水先の河川の水位を想定される最高水位に設定しています。

⑸水害時において、避難や水防活動を開始するタイミングは、お住まいの状況等により異なることから、自らの判断で適切に行動してください。

⑹市西側の山間部（鈴谷地区、浄土谷地区等）は、市街化調整区域であり雨水排水路が整備されていないため、内水浸水想定の対象範囲外となっています。

２基本事項等

⑴作成主体：長岡京市

⑵指定年月日：令和７年３月３１日

⑶告示番号：長岡京市告示第３４号

⑷指定の根拠法令：水防法（昭和２４年法律第１９３号）第１４条の２第２項第４号

⑸指定の前提となる降雨：既往最大規模降雨量（１時間に76.5mm）を想定最大規模降雨量（１時間に147mm）に引き延ばした降雨

⑹浸水想定手法：浸水シミュレーション手法［降雨損失・表面流出・管内水理・氾濫解析を一連で実施］

⑺境界条件：一級河川（小畑川、小泉川、犬川）の水位は最高水位を吐口地盤高、最低水位を吐口管底高とし波形は時間雨量によるものと設定。今里雨水ポンプ場は流入管の水位が13.10mを上回った際に稼働（排水量1.0m3/s）するものとし排出先の小畑川の水位が計画高水位23.70mを上回った際は停止するものと設定。更ノ町樋門は内水側の今井川の水位が外水側の小畑川の水位より低くなった段階で稼働するものと設定。

⑻その他計算条件等：

・国土地理院による基盤地図情報により対象区域を5mのメッシュに分割し、面積100㎡以下の不定三角形網で地表面形状をモデル化

・京都府が管理する一級河川（小畑川、小泉川、犬川）による浸水被害は、外水氾濫浸水想定区域として整理されているため、内水浸水想定シミュレーションでは外水による浸水被害を考慮しない。